

〈縄文楽検定テキストⅡ〉

# 信濃川火焰街道 縄文の旅



2011

信濃川火焰街道連携協議会

# 新潟市・三条市・長岡市・十日町市・津南町 信濃川火焰街道散策

Shinano-gawa Kaen Kaido



縄文文化を象徴する火焰土器は、  
はるか五千年前に信濃川流域で  
生み出されました。

新潟市・三条市・長岡市・十日町市・津南町の周辺は、  
縄文時代の遺跡の宝庫であり、  
各地の博物館や資料館には、  
国宝・重要文化財を含む貴重な出土品が展示されています。

まずは本書を片手に、  
信濃川沿いにつながる火焰街道を巡ってみましょう。



## 新潟市の火焰土器散歩

### ●秋葉遺跡 あきは いせき

秋葉遺跡は、新津丘陵にある縄文時代の集落跡で、標高は20mほどです。

平成10（1998）年と同11（1999）年、宅地造成などに先立って新津市教育委員会（当時）が秋葉遺跡を発掘調査したところ、土器片や石器などが平箱で130箱以上出土し、大きく中期と後期の二時期に渡って営まれた遺跡ということがわかりました。

遺構としては2棟以上の竪穴住居跡といくつかの土坑が見つかったほか、土器捨て場であったと見られる斜面からは非常に多くの土器片が出土しました。

また、この調査地では、火焰形土器が盛んになる中期後半の土器の量が、ほかの時期より多いこともわかりました。

写真は、この調査で出土した中期中葉の土器の口縁部片を復元したものです。口縁の突起が扇状に立ち上がっており、中越地方を中心に盛んに作られた火炎土器様式に属する王冠形土器という形式の特徴をよくあらわしています。形が復元できる火炎土器様式の個体の発見は新潟市では数少なく、貴重な資料といえます。

ただこの土器、口縁部はいいのですが、胴部には火炎土器様式本来の隆起線などを用いた文様ではなく、縄文が施されており、信濃川中流域に広がる王冠形土器の仲間と比べると、若干変り種といえますか、別の様式の特徴をあわせ持った土器となっています。

さて、近年も秋葉遺跡では、下水道工事などの折に新潟市教育委員会による立会いが行われ、多くの土器が発見されています。それらの破片の中には王冠形土器や火焰形土器が一定の割合で含まれているようです。今後詳しく調べれば、復元できる個体がまだ見つかるかもしれません。



王冠型土器

秋葉遺跡は、火焰形土器の時代、新潟市域に縄文時代の人びとが生活していたことの明らかな痕跡の一つであるといえます。

## ●大沢遺跡 おおさわ いせき

大沢遺跡は、新潟砂丘を見下ろす角田山のふもとの高台にあります。遺跡の範囲は東西500m、南北350mに及び、遺跡の中でも高いところは海拔50m、低いところは30mと、かなりの高低差があります。

遺跡は、三つの沢にはさまれた尾根の上に広がり、現在はカキ畑と山林になっています。細かくみると3つの地区（A・B・C）に分かれ、各地区の間には、遺物がほとんど発見されない空白の地帯が存在します。まぎれもない火焰形土器（写真）も見つかっていますが、残念ながら全体は残っていません。

昭和52（1977）年に新潟大学考古学研究室がB地区で、平成元（1989）年に当時の巻町教育委員会がA地区で、ともに小規模な発掘調査を行った結果、大沢遺跡は縄文時代の集落の跡であることがわかりました。

集落は縄文時代の前期終末から中期初頭（約5,000年前）に成立し、縄文時代の後期後半（約3,500年前）まで連続して人々が住み続けていますが、遺物の量が急激に増えるのは縄文時代の中期前葉です。このころ、角田山のふもとで縄文時代の集落の数が増加がピークに達することもあり、大沢遺跡も含めた角田山のふもとの縄文社会の繁栄がうかがわれます。

A地区の発掘調査では縄文時代中期前葉の花粉や胞子が発見されています。中でも多かったのは三種類の根菜植物で、地層の深さから、はじめはユリもしくはヒガンバナ、次にゼンマイ、その次にヤマノイモの順で、時期に

よって植物の種類が変化していたこともわかりました。また、ごみ捨て場の最下層からはソバの花粉も見つかりました。

ここに暮らした人々は、様々な植物を食料としていました。豊富な食料資源が縄文時代中期の社会の繁栄を支えたのでしょうか。



火焰型土器

## ■新潟市歴史博物館（みなとぴあ）



### 【ご案内】

- 観覧料** ●一般300円(240円) 大学・高校生200円(160円)  
 中学・小学生100円(80円) ( )内は20名以上の団体料金  
**休館日** ●毎週月曜日(祝日・振替休日に当たる場合はその翌日)  
 年末年始12月28日～翌年1月3日  
**開館時間** ●4月～9月 AM9:30～PM6:00 (入館はPM5:30まで)  
 10月～3月 AM9:30～PM5:00 (入館はPM4:30まで)

### 【詳しいお問い合わせは】

〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10  
 TEL.025-225-6111 FAX.025-225-6130  
 URL <http://www.nchm.jp>  
 E-mail [museum@nchm.jp](mailto:museum@nchm.jp)

## ■新潟市文化財センター（まいぶんポート）



### 【ご案内】

- 入館料** ●無料  
**休館日** ●月曜日・休日の翌日・年末年始(12月28日～1月3日)  
**開館時間** ●AM9:30～PM5:00

### 【詳しいお問い合わせは】

〒950-1122 新潟市西区木場2748-1  
 TEL.025-378-0480 FAX.025-378-0484  
 URL <http://www.city.niigata.jp/info/maibun/index.html>  
 E-mail [bunkazai@city.niigata.lg.jp](mailto:bunkazai@city.niigata.lg.jp)



## 阿賀野市・五泉市・加茂市の火焰土器散歩

### ●ツベタ遺跡 つべた いせき

阿賀野市ツベタ遺跡は、旧安田町出身で『大日本地名辞典』を著した吉田東伍博士によって明治19（1886）年に発見された遺跡です。

これまでの数回にわたる発掘調査で、縄文時代中期前葉から後期中葉の集落であることがわかりました。火炎土器のほかにも後期の三十稲場式土器、加曾利B式土器などが出土していますが、いずれも阿賀野川流域の特徴として東北地方の影響を強く受けた形・文様となっています。

周辺には同時期の村杉遺跡、野中遺跡などが分布しており、土石流などの災害により、遺跡間での移動を繰り返していたものと考えられています。

### ●大蔵遺跡 おおくら いせき

五泉市大蔵遺跡は、縄文時代中期（5000－4000年前）の集落遺跡です。昭和35（1960）年と翌36（1961）年に学術調査し、炉跡を伴う2軒の竪穴住居跡、土坑や集石遺構を発見しました。調査は遺跡のほんの一部でしたが、平箱にして約300箱を超える大量の土器と石器、土偶や耳栓などの土製品が出土し、縄文時代の生活や文化を知る貴重な資料となっています。特に出土した台付き浅鉢は、優勝カップに似たその形から「栄光杯（えいこうはい）」と名づけられ、五泉市の文化財保護のシンボルとして多くの市民に親しまれています。大蔵遺跡は、昭和43（1968）年に市の史跡に指定されました。

### ●水源池遺跡 すいげんち いせき

加茂市水源池遺跡は、加茂川最上流域の河成段丘上に立地しています。昭和30（1955）年のダム建設工事中に土器や石器などが発見され、工事の合間に遺物の収集が行なわれました。遺構は不明な点が多いものの石組炉跡が確認されていることから、竪穴住居跡が存在したと見られます。なお、石組炉跡は加茂市民俗資料館に移築・保管されています。水源池遺跡からは縄文中期～後期の土器が出土していますが、中心的な時期は中期前葉～中葉です。東北系や北陸系の土器とともに見事な王冠型土器が出土し、復元されています。石器では大型の石棒が目立ちます。本遺跡は遺物の様相から、加茂川流域の中で中心的なムラのひとつであったことが考えられます。



ツベタ遺跡の土器群



大蔵遺跡の台付き浅鉢



水源池遺跡の王冠型土器



## 三条市の火焰土器散歩

### ●吉野屋遺跡 よしのや いせき

吉野屋遺跡は、東山丘陵の台地上に営まれた縄文時代中期から後期の大集落で、昭和44（1969）年に工場の建設に伴い発掘調査が行なわれました。工場造成中にも大量の遺物が出土し、考古学愛好家による遺物の採集が行なわれ、貴重な出土品を今日に伝えています。火焰型土器や王冠型土器とともに、「土偶」と呼ばれる粘土でできた人形が100体以上出土し、注目を集めています。頭頂部が平らか皿状にへこむ「カップ形土偶」と呼ばれるもので、吉野屋遺跡のものは特に顔面が狭くかわいらしい顔をしています。土偶や三角形



吉野屋遺跡出土の土偶（Photo by T.OGAWA）

土版などの呪術的な道具がたくさん出土していることから、周辺の集落から大勢の人々が集い、まつりが行なわれた地域の中核的なムラであったと考えられます。



吉野屋遺跡出土の土偶（Photo by T.OGAWA）



●長野遺跡 ながの いせき

長野遺跡は、五十嵐川・守門川・駒出川の三河川の合流点付近に営まれた縄文時代中期から後期の大集落です。平成元（1989）年に発掘調査が行われ、30軒以上の竪穴式住居と木の実などを貯蔵したと考えられるフラスコ状土坑等が検出されました。遠く離れた糸魚川市姫川が原産地のヒスイの首飾り「大珠」も出土しています。

この遺跡からは火焰型土器と王冠型土器を始め、大量に土器が出土し、形や文様が福島県会津地方のものと似ている土器もありました。縄文時代から「八十里越え」を越えて交流があったことが考えられます。名勝八木ヶ鼻に臨むこの地は、「火焰土器の国新潟」と会津地方を結ぶ縄文文化の交流のムラと言えます。



会津地方の土器と似た土器



長野遺跡出土の火焰型土器と王冠型土器

## ●五百川遺跡 いもがわ いせき

古くから火焰型土器が採集されていた五百川遺跡は、悠然とそびえる粟ヶ岳を臨む駒出川の河岸段丘上にあります。谷を挟んで多くの建物があった大きな北のムラと小さな西のムラがあったことが近年の発掘調査からわかりました。北のムラには、家並みの外側に土器や石器が大量に出土する斜面がありました。これは、「モノ送りの場」と考えられ、縄文の人々が壊れた土器や石器をここに置き、新しく作るものに古いもののいのちが受け継がれること



五百川遺跡から望む粟ヶ岳

を願ったものと考えられます。西のムラは台地の縁に位置し、家の奥に石棒を立てられた竪穴式住居跡と火が焚かれた穴が見つかったことから物見台的な役割を果たしていたことが考えられます。



北のムラの「モノ送りの場」

## ■ 三条市歴史民俗産業資料館



### 【ご案内】

観覧料 ● 無料

休館日 ● 月曜日・毎月末日（※但し、土・日・祝は開館）

12月29日～翌年1月3日

開館時間 ● AM9:00～PM5:00

### 【詳しいお問い合わせは】

〒955-0071 新潟県三条市本町3丁目1番4号

TEL.0256-33-4446 FAX.0256-33-7060

URL <http://www.city.sanjo.niigata.jp/rekimin/>

E-mail [rekimin@city.sanjo.niigata.jp](mailto:rekimin@city.sanjo.niigata.jp)

## ■ 三条市下田郷資料館



### 【ご案内】

入館料 ● 無料

休館日 ● 12月29日～翌年1月3日

開館時間 ● AM9:00～PM4:30

〒955-0107 三条市飯田1029番地1（ウェルネスしただ内）

TEL.0256-46-5110

### 【詳しいお問い合わせは】

三条市市民部 生涯学習課 埋蔵文化財調査室

〒955-0166 三条市上大浦670番地

TEL.0256-46-5205

URL <http://www.city.sanjo.niigata.jp/shougaiyakushu/page00259.html>

E-mail [bunkazai@city.sanjo.niigata.jp](mailto:bunkazai@city.sanjo.niigata.jp)



## 見附市の火焰土器散歩

### ●羽黒遺跡 はぐろ いせき

羽黒遺跡は見附市街地の北約2kmの東山丘陵と新潟平野の接点にあたる標高45mの丘陵西端に位置しています。昭和48(1973)年に市教育委員会が実施した発掘調査によって竪穴住居跡5棟や土坑などの遺構が確認されました。竪穴住居跡は楕円形や方形の平面形で住居の中に炉が確認されました。東から西にゆるく傾斜する斜面上40㎡ほど広さで土器捨て場が見つかり、そこから縄文時代中期の土器が大量に出土しました。

住居跡や捨て場などから見つかった土器には、中期の火焰型土器や後期の捺糸文などの文様を施した土器があり、土器以外にも土偶、土錘といった土製品や石斧、石皿、石棒などの石器も出土しています。住居跡や出土遺物の量などから羽黒遺跡は刈谷田川右岸の東山丘陵沿いにおける、縄文時代中期から後期にかけての拠点的な集落と推測されています。

### ●耳取遺跡 みみとり いせき

耳取遺跡は、見附市街地から刈谷田川を挟んで南に2km、東山丘陵から半島状に突き出した丘陵上にあります。この遺跡は畑地として開墾され、以前から多くの土器や石器が散在していることが知られていました。昭和42(1967)年と昭和62(1987)年に発掘調査が行われ、竪穴住居跡などの遺構と縄文時代草創期から晩期までの各期の土器が見つかりました。中でも中期から晩期にかけてのものが非常に多く、これらの時期を中心に非常に長期間にわたって集落が営まれていたものと推測されます。

耳取遺跡は幸い大規模な開発をまぬがれて現在に至っているため、保存状態が良好です。見附市教育委員会では平成23(2011)年から各時期の集落のあり方などを確認するための発掘調査を行っています。



羽黒遺跡の土器群



耳取遺跡の土器群

## 長岡市の火焰土器散歩

### ● 栃倉遺跡 とちくら いせき

栃尾地域の中央部を流れる刈谷田川右岸の段丘上に位置しています。昭和30・31（1955・56）年に栃尾市教育委員会が発掘調査を行い、縄文時代中期の竪穴住居11棟が発見されました。その床の中央には石で卵形や長方形に囲った特徴的な石組炉が築かれていました。出土した遺物には、火焰型土器を含む多量の縄文土器や石鏃・石斧などの石器類があります。栃倉遺跡の竪穴住居跡は、新潟県を含む日本海側諸県では最初の発見であり、学術的な発掘調査として記念碑的な意義をもっています。なお、遺跡は市の史跡に指定されており、復元された火焰型土器は市指定文化財です。



火焰型土器

### ● 山下遺跡 さんか いせき

信濃川右岸側で柿川の上流域（柿町）に位置しています。遺跡名の「山下」は、中世の館を意味する字名から付けられました。昭和39・42（1964・67）年に長岡高等学校人文科学部と長岡市立科学博物館が発掘調査を行い、縄文時代中期前半を中心とする多量の遺物が発見されました。発掘地点は当時のゴミ捨て場にあたるようです。特に火焰型土器群でも古い段階の資料がまとまって出土しており、北陸・東北・関東など他地方の影響を受けながら火焰土器の様式が誕生した様子をよくあらわしています。遺物の出土量や内容から、東山丘陵沿いに分布する縄文時代の拠点的な集落であったと考えられます。出土した主な遺物は、長岡市馬高縄文館で見ることができます。



火焰型土器



山下遺跡（遠景）

## ●馬高遺跡 うまたか いせき

信濃川左岸の段丘上（関原町1丁目）にある縄文時代の大規模な集落跡です。「遠藤沢」と呼ばれる小さな沢を挟んで、東側に中期の馬高遺跡、西側に後期の三十稲場遺跡が位置しています。特に馬高遺跡は「火焰土器」発祥の地として全国的に著名であり、昭和54年には三十稲場遺跡とともに国史跡に指定されました。

発掘調査の結果、馬高遺跡では広場を中心に竪穴住居群が立ち並ぶ典型的な環状集落の姿が明らかになっています。最初に発見された「火焰土器」は平成2年に国重要文化財となり、平成14年にはその他の主要な土器・石器等を合わせた300点が重要文化財の追加指定を受けました。



馬高遺跡の土器群（Photo by T.OGAWA）

現在、史跡に隣接してガイダンス施設「馬高縄文館」があり、史跡で発見された出土品は、同館で見学することができます。また、火焰土器をつくっていたころの復元住居1棟も現地に整備されました。平面形は長形状で、壁が垂直に立つ構造（壁立式）です。



馬高遺跡の住居跡

●岩野原遺跡 いわのはら いせき

信濃川左岸の段丘上にあった（深沢町）縄文時代の大規模な集落跡です。昭和53～55（1978～80）年、長岡市教育委員会が遺跡全域にわたる発掘調査を実施しました。遺跡の範囲は東西約300m・南北約150mに及び、東側に中期の集落、西側には後期の集落が広がっていました。いずれも中央の広場を中心に住居跡や貯蔵穴等が環状に巡る典型的な縄文集落です。

中期の集落には竪穴住居跡82棟、貯蔵用の土坑60基、墓穴とみられる多数の土坑、膨大な遺物を廃棄した土器（ゴミ）捨て場2か所などが確認されました。出土した遺物は膨大な点数に上り、火焰型土器をはじめとする土器類、多種多様な石器類がみられます。それらの主要な出土品は、長岡市馬高縄文館で見学することができます。なお、残念ながら遺跡は調査後に関越自動車道の土取工事で消滅しました。



火焰型土器



岩野原遺跡の中期集落

### ●門の沢遺跡 もんのさわ いせき

西山丘陵沿いからやや奥まった三島地域の逆谷集落付近に位置しています。昭和57・58（1982・83）年の発掘調査で、縄文時代中期前半を中心とする多数の土器や石器が出土し、楕円形の石組炉1基も発見されました。時期的にはちょうど火焰型土器がつくられたころにほぼ限定されるようです。遺跡は市の史跡に指定されており、復元された火焰型土器（市指定文化財）は三島郷土資料館で展示しています。



火焰型土器の出土状況



火焰型土器

### ●徳昌寺遺跡 とくしょうじ いせき

信濃川左岸の段丘上で、与板地域のほぼ中央部に位置しています。その範囲はNHK大河ドラマ『天地人』で話題になった古刹徳昌寺の境内に広がっています。昭和35年、与板町教育委員会が遺跡の発掘調査を行いました。その結果、縄文時代中期から晩期にかけての土器や石器が多数出土しています。特に火焰型土器を含む中期前半の土器が豊富です。また、火焰型土器をつくっていた当時の小形の竪穴住居跡1棟も発見されました。これらの出土した遺構や遺物の内容から、中期には規模の大きい集落跡であったと考えられます。遺跡は市の史跡に指定されており、主な火焰型土器（市指定文化財）は長岡市馬高縄文館で見ることができます。



竪穴住居



火焰型土器



## ■長岡市馬高縄文館



### 【ご案内】

観覧料 ●200円 高校生以下無料 団体(20人以上)150円  
 休館日 ●毎週月曜日(休日の場合その翌日)及び  
 12月28日から翌年1月4日

開館時間 ●AM9:00~PM5:00 (入館はPM4:30まで)

### 【詳しいお問い合わせは】

〒940-2035 長岡市関原町1丁目3060-1  
 TEL.0258-46-0601 FAX.0258-46-0603  
 URL <http://www.museum.city.nagaoka.niigata.jp/>

## ■長岡市三島郷土資料館



### 【ご案内】

入館料 ●大人300円 小人150円

休館日 ●月曜日、12月28日から翌年1月4日まで

開館時間 ●AM9:00~PM5:00

### 【詳しいお問い合わせは】

〒940-2314 長岡市上岩井1260-1(長岡市みしま会館内)  
 TEL.0258-42-2222 FAX.0258-42-3534  
 E-mail [msm-kyoiku@city.nagaoka.lg.jp](mailto:msm-kyoiku@city.nagaoka.lg.jp)



## 小千谷市の火焰土器散歩

### ●俣沢遺跡 またざわ いせき

俣沢遺跡は、小千谷市片貝町の高台、越路原の東端に広がる縄文時代中期から後期にかけての遺跡です。標高は150mほどで、越路原から片貝に向かって流れる源二郎川の源流左岸に位置しています。対岸には縄文時代後期の婆々懐遺跡があり、過去に発掘調査も行われています。

この遺跡周辺からは以前から火焰型土器、王冠型土器が見つかっていて、神林昭一氏による探査によって、多くの土器が発見されています。現在その多くは新潟県立歴史博物館に収蔵されています。遺跡自体は越路原の開発に伴って多くが水田になっていますが、現在も谷あいには遺跡が部分的に良好に保存されています。

### ●徳右工門山遺跡 とくうえもんやま いせき

徳右工門山遺跡は、小千谷市の中央に位置する山本山の北東側裾野にある縄文時代中期の遺跡です。標高は100mほどで、信濃川を真下に望む高台に位置しています。小千谷市内の縄文時代遺跡は河岸段丘の直上に見つかる例が多く、この遺跡もその一つです。

昭和60(1985)年、日本国有鉄道(現JR東日本)の山本山第2調整池の建設の際に行われた発掘調査で、住居址、石囲炉などが発見され、多くの石器や土器が見つかりました。土器の多くは火焰型土器と呼ばれる縄文時代中期のものが中心です。この遺跡は現在では道路と畑になっています。



俣沢遺跡の王冠型土器



徳右工門山遺跡の火焰型土器



## 魚沼市の火焰土器散歩

### ●清水上遺跡 しみずのうえ いせき

清水上遺跡は、魚沼市根小屋字清水上に所在し、魚野川右岸の河岸段丘上に立地する環状集落です。関越自動車道及び堀之内IC建設に伴い発掘調査が行われました。調査面積は約45,000㎡であり、ほぼ遺跡全体を発掘しました。本遺跡は縄文時代早期・前期及び中期前葉～中葉にかけて4つの集落で成ります。土器では、北陸系・信州系・東北系・関東系・在地系が確認されています。縄文時代中期前葉では、北陸系の土器の割合が多く、中期中葉以降は東北系の土器が多く占めます。地理的にみても北陸と関東と東北が交流する要所であり、火焰型土器の形成段階を考える上で重要な資料です。

### ●正安寺遺跡 しょうあんじ いせき

正安寺遺跡は、魚沼市堀之内字春日平に所在し、魚野川左岸の河岸段丘面に立地しています。平成5・6・8年度に都市計画道路大石・吉水線改良工事に伴い、発掘調査が行われました。調査面積は約5,200㎡で、竪穴住居跡が32軒、土坑42基、埋設土器10基、土器捨て場1箇所などが発見されました。広場、居住域、貯蔵穴群、捨て場から構成される全長100mの環状集落と推定されます。特に29号竪穴住居跡から出土した火焰型土器は、最盛期（新期古段階）に位置するもので、一般的に赤褐色を呈する火焰型土器が多い中、灰褐色を呈し、あまり類例を見ない資料です。



清水上遺跡の王冠型土器



正安寺遺跡の火焰型土器



## 十日町市の火焰土器散歩

### ●野首遺跡 のくび いせき

野首遺跡は、国道117号線と上新田集落の間に位置し、信濃川右岸の河岸段丘上に立地しています。平成8（1996）年に県営ほ場整備事業に伴い、市教育委員会による調査が行われ、縄文時代中期～後期の集落が発見されています。遺構は、竪穴住居12軒、掘立柱建物6棟、石組炉27基、配石遺構28基、埋設土器24基、土器捨て場1ヶ所、土坑・柱穴多数などが検出され、これらは直径60m前後の環状に分布しています。

火焰型・王冠型土器をはじめ土器が大量に出土しているほか、耳飾り、土偶、三角形土製品、スタンプ形土製品などの土製品、石鏃、石匙、打製・磨製石斧、大珠、石棒などの石器・石製品も多彩です。



遺跡全景



野首遺跡出土の火焰型土器群 (Photo by T.OGAWA)

● 笹山遺跡 ささやま いせき

笹山遺跡は、中条上町集落の東約400mに位置し、信濃川右岸の河岸段丘上に立地しています。昭和55～60（1980～1985）年に市営野球場・陸上競技場などの建設に伴い7次にわたる調査が行われ、縄文時代中期～後期と中世の集落が発見されています。遺跡の一部は市史跡に指定されています。

縄文時代の遺構は、石組炉112基、土坑5基、埋設土器36基などが検出され、これらは長軸110m、短軸100mの馬蹄形に分布しています。

火焰型・王冠型土器をはじめ土器が大量に出土しているほか、土偶、耳飾りなどの土製品、垂飾などの石製品も豊富です。石器は、縄文時代の道具一式がそろっています。

火焰型・王冠型土器をはじめとする深鉢57点と浅鉢・石器・土製品・石製品など871点の計928点が平成11（1999）年に国宝に指定されています。



調査風景



笹山遺跡出土の火焰型・王冠型土器群 (Photo by T. OGAWA)

●幅上遺跡 はばがみ いせき

幅上遺跡は、南鏡坂集落の東約600mに位置し、信濃川左岸の河岸段丘上に立地しています。平成2（1990）年に県営ほ場整備事業に伴い市教育委員会により調査が行われ、縄文時代中期の集落が発見されています。

遺構は、竪穴住居10軒、掘立柱建物28棟、土坑11基、土器捨て場1ヶ所などが検出され、これらは、直径80m前後の環状に配置されています。

竪穴住居と掘立柱建物は分布域を異にし、土器捨て場は集落の外縁にあります。土器は火焰型・王冠型など在地系のほかに、東北系、関東系、北陸系のものがあります。打製石斧が石器組成の5割以上を占めています。出土遺物は平成12（2000）年に市文化財に指定されています。



王冠型土器の出土状況



幅上遺跡出土の土器群（Photo by T.OGAWA）

## ●森上遺跡 もりがみ いせき

森上遺跡は、高道山集落の西側に位置し、清津川右岸の河岸段丘上に立地しています。昭和48(1973)年に団体営ほ場整備事業に伴い、県文化行政課により調査が行われ、縄文時代中期の集落が発見されています。

確認調査でしたが、30軒の竪穴住居の存在が推定され、盛土保存されています。中期中葉～末葉の土器が出土していて、台付鉢も見られます。復元された火焰型土器2点は長期にわたり千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館に貸し出されていましたが、合併を機に市に返却されています。



火焔型土器



火焔型土器

## ■十日町市博物館



### 【ご案内】

入館料 ●300円 中学生以下無料 団体(20人以上)250円  
休館日 ●月曜日、祝日の翌日  
年末年始(12月27日から1月4日)  
開館時間 ●AM9:00～PM5:00(入館はPM4:30まで)

### 【詳しいお問い合わせは】

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1  
TEL.025-757-5531(代) FAX.025-757-6998  
URL <http://www.tokamachi-museum.jp/index.cgi>  
E-mail [museum.10@city.tokamachi.lg.jp](mailto:museum.10@city.tokamachi.lg.jp)



## 津南町の火焰土器散歩

苗場山麓に広がる河岸段丘は、大きく9段に区分され日本一の段丘地形と表されています。町の西部を流れる信濃川には、北から清津川、中津川、志久見川の支流が流れ込みます。これら支流は、石器石材が豊富に採取される特徴があり、特に頁岩や凝灰岩などは中津川や清津川で採取され、無斑晶ガラス質安山岩は志久見川で容易に拾うことができます。また、信濃川下流の河川敷の標高が177cmを測ります。この地点から直線約25kmが標高2,145mの苗場山頂です。この25kmの間で気象と地質が標高と複雑に関係しあいながら多様な生態環境を育んでいます。

このような環境下に数多くの遺跡が確認され、縄文時代以前の旧石器時代遺跡は70以上を数えます。縄文時代の遺跡は、草創期、早期、前期、中期、後期、晩期の6時期、すべてに関わる遺跡が確認されており、その数は100以上を数えます。そのような状態を指して、「縄文銀座」と呼ばれています。

このたびは縄文時代中期に絞り、火焰型土器を製作した芸術集団のムラをご紹介します。

### ●沖ノ原遺跡 おきのはら いせき（昭和47年国指定史跡登録）

慶應大学の江坂輝彌先生率いる調査団によって沖ノ原遺跡の概要が判明しました。その状況は、当時センセーショナルなもので豪雪地に「環状に広がる縄文ムラ」というものでした。火焰型土器を含む多量な土器群や土偶、石器群に混じり、炭化したクッキー状炭化物も出土しました。これら遺物群は、平成7（1995）年に新潟県指定文化財に登録されました。



土器の顔



火焰型土器



クッキー状炭化物  
(Photo by T.OGAWA)



## ●道尻手遺跡 どうじって いせき

津南町教育委員会が開発に伴い、平成8（1996）年に調査した遺跡です。調査では環状集落の約半分を調査し、残りは現在なお水田として保存されています。調査では、浅い沢が発見され、その沢が廃棄場として使用され、大量の土器群と石器や土偶などが発見されました。また、土偶および三角形土版は新潟県一の出土数です。廃棄場においては土偶片の接合関係が認められ、土偶廃棄行為の実態も知られています。検出された遺構群は、広場を囲み、長方形住居が放射状に配置していました。集落は中期中葉から構築されはじめますが、後期前葉になると広場縁に配石墓が構築され、その内部にも居住域が広がり、広場の意味が変わります。出土した土器群24点は、平成22（2010）年に町指定文化財に登録しました。



遠景（南東から）



火焰型土器とその仲間（Photo by T. OGAWA）

## ●堂平遺跡 どうだいらいせき

堂平遺跡は、遺跡地に住宅や農機具小屋が建築され、一部、水田が造成されていたことから、調査面積の1/3は既に破壊されていました。しかしながら調査では、広場を囲み、竪穴住居やフラスコ状土坑が「環」を意識して弧状に構築されていた様子を知ることができました。広場の縁を石が囲み、環状列石が構築されていました。新潟県において環状列石の検出は希有なものであり、貴重な事例であります。この環状列石の内側には石棒が立ち、墓坑が分布していました。墓坑の一例は、楕円形墓坑の主軸端部に逆さまに伏せた浅鉢形土器が出土し、中央部には火葬した骨と炭がまとまって検出され、その上部に抱き石が配置されていました。本来、屈葬事例で確認される状況が認められる貴重な事例です。フラスコ状土坑中層から対の耳飾りが対で出土した事例や、下層から沖ノ原式土器が24個体一括出土した事例など埋葬と関連する貴重な資料が提供されました。

ほぼ完形で出土した王冠型土器と潰れた状態で出土した火焰型土器は、共に残存率が高く、優品であることから平成18(2006)年に国保有文化財になり、国重要文化財に登録されました。



左：第45号住居跡出土品  
(Photo by T. OGAWA)

左下：第11号住居跡発掘風景

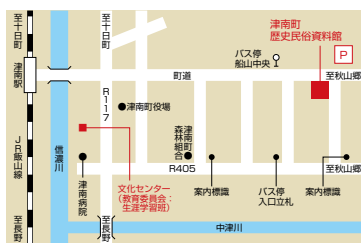
下：国重要文化財登録品  
(Photo by T. OGAWA)



## ■津南町歴史民俗資料館



秋山郷の入り口に位置する船山集落に所在する当館は、秋山郷の山村生活民具(国重要文化財)を中心に、沖ノ原、道尻手、堂平遺跡などの考古資料が常設展示されています。また、野外には茅葺き民家が保存されています。



### 【ご案内】

観覧料 ●大人210円 学生等100円  
(団体：大人100円 学生等50円)

休館日 ●毎週月曜日 12月28日～翌年3月10日

開館時間 ●AM9:00～PM4:00

### 【詳しいお問い合わせは】

〒949-8311 新潟県中魚沼郡津南町船山(大字中深見乙827番地)

TEL.025-765-2882

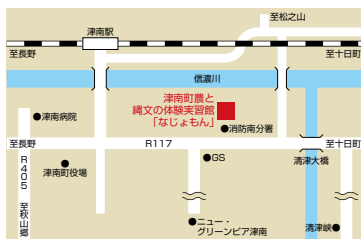
URL <http://www.tsunan.or.jp/O2tsunan/rekisi/rekisi.htm>

## ■津南町農と縄文の体験実習館 (愛称：なじよもん)



館の愛称である「なじよもん」とは、方言の「なじよも きてくねかい(どうぞ きてください)」の「なじよも」と縄文の里であることから「縄文」を掛け合わせた造語です。

新潟方面からの入り口に当たる卯ノ木集落に所在する当館は、津南町に残された縄文文化とその伝統民俗技術に着目し、学童に五感を通して、それら技術の継承と、縄文文化を育んだ自然環境の尊さを学ぶ館として開館しています。詳しくは「なじよもん」をPCで検索下さい。



### 【ご案内】

入館料 ●大人300円 中学生以下200円

休館日 ●月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)

開館時間 ●AM9:00～PM5:00

### 【詳しいお問い合わせは】

〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835

TEL.025-765-5511(FAX兼用)

URL <http://www.najomon.com>

E-mail [najo@najomon.com](mailto:najo@najomon.com)



## 南魚沼市の火焰土器散歩

### ●原遺跡 はら いせき

原遺跡は、南魚沼市の南部、信濃川の支流である魚野川の右岸、飯士山北西麓緩斜面上に立地します。リゾートマンションの建設に伴い発掘調査が行われ、縄文時代中期中頃から後期にかけての長期間継続した集落遺跡であることがわかりました。

住居跡・墓穴・貯蔵穴・敷石住居や配石墓等の配石遺構などが検出され、中央広場を中心に弧状に住居跡が囲む集落の様子がうかがえます。

出土遺物は、火焰型土器をはじめとし数多くの土器や石器が検出されていますが、土偶はほとんど見つかっていません。土偶の出土が少ないことは魚野川流域の縄文遺跡全体に当てはまる特徴です。

### ●五丁歩遺跡 ごちょうぶ いせき

五丁歩遺跡は、原遺跡と沢を隔てて約250メートル南西に位置する遺跡です。関越自動車道建設に伴って縄文時代中期前半の集落のほぼ全体が発掘調査されました。それにより、広場を中心として墓域・居住域が同心円状にめぐる典型的な環状集落の構造が明らかとなりました。

出土土器は、群馬県や長野県の土器に類似するものが多いことが特徴です。また植物繊維の加工に使ったと考えられている板状石器や、彫刻石皿の出土が多いことも特筆されます。これらの遺物は、新潟県の縄文文化を語る上で極めて重要であるため、出土品1,394点は新潟県の文化財に指定されています。



五丁歩遺跡の土器群



獣脚土器



## 湯沢町の火焰土器散歩

信濃川の支流である魚野川の最上流部に位置する国境の町が湯沢町です。この町は、川端康成の小説「雪国」の地であり、主人公の駒子が闊歩した温泉町です。上越新幹線の越後湯沢駅付近は、駒子ゆかりスポットを探索できるよう整備され、その中心に湯沢町歴史民俗資料館（愛称：雪国館）があります。また、近接地には秋葉山城跡や石白泉福寺跡（本州一の埋蔵金出土地点）、そして、樋口主水助屋敷跡が公園として保存されています。この樋口屋敷は、直江兼嗣の親族の屋敷である可能性があり、湯沢ミステリーのひとつです。

### ●川久保遺跡 かわくぼ いせき

もうひとつの湯沢ミステリーが川久保遺跡です。このムラは、約5,500年前に魚野川最上流部に営まれた「火焰のクニ」に属する縄文ムラです。あの素晴らしい縄文芸術の傑作を製作した芸術集団のムラが、越後湯沢から歩いて15分の位置に残されています。このムラは、北関東と越後を結ぶ縄文道に沿って営まれた関所的な意味を持つムラであったと推定されています。このムラから素晴らしい王冠型土器などと共に関東地方の土器も多数発見されています。

なぜに、湯沢に縄文芸術集団のムラが5,500年もの大昔に営まれなくてはいけなかったのか？当時も現在と変わらない豪雪地であったことも判明しており、縄文人の生活がどのように展開していたのか興味深いところです。



王冠型土器



深鉢形土器

## 新潟県立歴史博物館



### 【ご案内】

観覧料 ●大人500円(400円) 高校・大学生200円(160円)  
小中学生無料 ( )は20名以上の団体料金

休館日 ●毎週月曜日(祝日・振替休日に当たる場合はその翌日)  
年末年始12月28日～翌年1月3日

開館時間 ●AM9:30～PM5:00(入館はPM4:30まで)

### 【詳しいお問い合わせは】

〒940-2035 長岡市関原町1丁目字権現堂2247番2

TEL.0258-47-6130(代) FAX.0258-47-6136

URL <http://www.nbz.or.jp/jp/>

E-mail [office@nbz.or.jp](mailto:office@nbz.or.jp)

## SHINANOGAWA KAEN KAIDO



もっと火焰型土器について調べたい方には  
下記のような文献があります。



(抜粋、発掘調査報告書等を除く)

- 小林達雄 1978 『日本の美術 縄文土器』No.145 至文堂
- 新潟県教育委員会編 1979 『新潟県埋蔵文化財図録集1 火焰型土器』
- 小林達雄ほか 1988 「火炎土器様式」『縄文土器大観3 中期Ⅱ』小学館
- 加藤緑編 1995 『火炎土器－燃えあがる造形美と土器文化の謎－』大田区立郷土博物館
- 石原正敏・竹内俊道編 1996 『火焰土器研究の新視点』十日町市博物館
- 菅沼亘編 1996 『縄文の美－火焰土器の系譜－』十日町市博物館
- 竹内俊道・石原正敏編 2000 『火焰型土器をめぐる諸問題－笹山遺跡の謎に迫る－』十日町市博物館
- 小熊博史編 2001－『重要文化財考古資料展－火焰土器と小瀬ヶ沢・室谷洞窟出土品－』長岡市立科学博物館
- 佐野良吉・田村喜一ほか編 2003 『妻有郷の文化財』週報とおかまち社
- 新潟県立歴史博物館編 2004 『火炎土器の研究』同成社
- 九州国立博物館・津南町教育委員会監修 2005 『よみがえる被災 火焰型土器』クバプロ
- 佐藤雅一・佐藤信之編 2006 『火焰土器の時代－その文化を探る－』津南町教育委員会・信濃川火焰街道連携協議会
- 菅沼亘編 2007 『十日町市の縄文土器』十日町市博物館友の会
- 土肥孝 2007 『日本の美術 縄文土器 中期』No.497 至文堂
- 信濃川火焰街道連携協議会 2008 『縄文楽検定テキスト 縄文文化と火焰土器』
- 新潟県立歴史博物館編 2009 『火焰土器の国 新潟』新潟日報事業社
- 菅沼亘編 2009 『縄文人の道具箱 野首遺跡』十日町市博物館
- 菅沼亘 2010 「縄文が施されていない火焰型土器」『国宝の美』No.49 朝日新聞出版
- 菅沼亘編 2011 『国宝笹山遺跡出土品のすべて』十日町市博物館



津南町：なじょもん縄文ムラ

〈縄文楽検定テキストⅡ〉

## 信濃川火焰街道 縄文の旅

- 監 修：小林 達 雄
- 執 筆：安達桂祐・安立 聡・石原正敏・伊藤秀和・今井秀樹・  
小熊博史・勝山百合・佐藤雅一・高木公輔・廣野耕造・  
古澤妥史・山崎 天 (50音順)
- 編集・発行：信濃川火焰街道連携協議会
- 発 行 日：平成23年12月24日